



# TOKYO NEWS FLASH

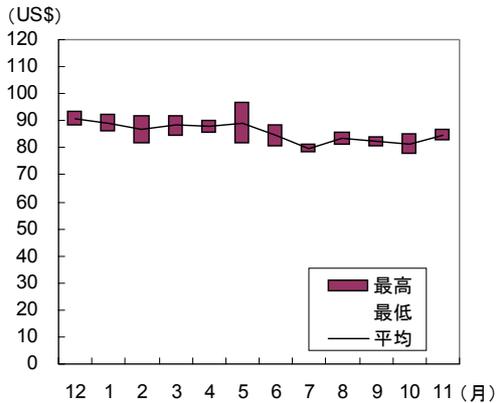
米国食肉輸出連合会 (USMEF)

Volume 229 November 29, 2002

## 米国食肉市場ニュース

### ～ 牛肉 ～

去勢牛の 100 ポンド (約 45kg) 当たりの価格  
(オクラホマシティー・体重 600～700 ポンド)



資料 : Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain

- 注 : 1.2001年12月～2002年11月までのデータ  
2.該当月の第1週のデータより作成 (2002年1・9月を除く)  
3.2002年9・11月の価格はイヤリングビーフ (若齢牛) による

### 牛肉市況 (11月11～15日)

#### ● 週間と畜頭数 :

65万2,000頭 (前年比1.4%減)。

#### ● 肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり) :

ほぼ前年通りのと畜頭数にもかかわらず、前週よりも若干値を上げ、生体で1.00ドル高、枝肉で3.00ドル高となった。生体価格は、中西部の直接取引では67.00～69.75ドル、ハイプレーンズでは69.00～70.30ドル。全米平均価格は、生体で69.25ドル、枝肉で109.00ドル。

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、  
100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重(ポンド)	11月11～15日
400～500	94.00～107.50
500～600	80.25～93.75
600～700*	84.00～86.50
600～750**	77.25～86.25
700～800	81.50～86.25
800～1000	74.00～82.00

\* 子牛 \*\* イヤリングビーフ (若齢牛)

#### ● 今年のトウモロコシの収穫高予測

(11月1日現在/USDA発表) :

10月の予測よりも3,300万ブッシェル (約116万2,900キロリットル) 多い90億300万ブッシェル (約3億1,700万キロリットル)。また、来年度のトウモロコシの平均農場価格予測 (1ブッシェル [約36リットル] 当たり) は、10月の予測を0.10ドル下回る2.40ドルとなった。

#### ● 今年の大豆の収穫高予測(11月1日現在/USDA発表) :

先月の予測よりも3,600万ブッシェル (約126万8,600キロリットル) 多い26億9,000万ブッシェル (約9,479万2,200キロリットル)。来年度の価格予測 (1トン当たり) は、先月の予測を10.00ドル下回る170.00ドルとなった。

(Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain, 11/15/2002)

### 主要7州のフィードロット\*内頭数、 前年比9%減 (2002年11月1日現在)

#### ● 現在のフィードロット内頭数 :

930万頭 (前年比・2000年比とも9%減)。

#### ● 10月の導入頭数 :

201万頭 (前年比13%減、2000年比16%減)。

#### ● 10月の出荷頭数 :

171万頭 (前年比・2000年比とも4%増)。

#### ● 10月のその他の消失頭数 :

7万5,000頭 (前年比32%増、2000年比50%増)。

\* 収容頭数1,000頭以上

(USDA's Cattle on Feed, 11/15/2002)

### 主要7州<sup>1</sup>フィードロット内頭数 (単位:1,000頭)

	2002年	対前年
10月1日現在フィードロット内頭数 <sup>2</sup>	9,088	95%
10月導入頭数	2,008	87%
10月出荷頭数	1,706	104%
10月のその他の消失 <sup>3</sup>	75	132%
11月1日現在フィードロット内頭数 <sup>2</sup>	9,315	91%

資料 : 2002年11月15日USDA発表による

- 注 : 1. アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、テキサス。  
2. 穀類あるいは他の濃縮飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。  
3. 死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。

## ～ 豚肉 ～

### 豚肉市況（11月11～15日）

- **週間と畜頭数：**  
202万1,000頭（前年比1.7%減）。
- **肉豚の現金取引価格（100ポンド〔約45kg〕当たり）：**  
今週になって急落し、生体で0.50～3.25ドル、枝肉で2.43～2.84ドル、それぞれ前週を下回った。
- **1日当たりの最大と畜頭数：**  
10月28日に、過去最大の39万8,443頭を記録した。生産者同様、パッカーも引き続き処理工場の効率化を進めている。1日当たりのと畜頭数が過去最高に近いレベルであるにもかかわらず、週間と畜頭数は、現在のと畜処理能力内でスムーズに処理できるレベルで推移している。今年秋の土曜日のと畜頭数は、すべて1998年の水準を下回っている。
- **経産・未經産豚のと畜頭数（11月第1週）：**  
経産豚は、繁殖頭数調整後で前年比約9%増。10月第2週からの4週間では同7%増。一方、11月第2週までの未經産豚の年間累積と畜頭数は、引き続き前年を上回っている。これらのデータから、繁殖用豚の頭数は、緩やかながらも減少傾向にあることが分かる。
- **枝肉重量（11月第1週）：**  
前年比2ポンド（約0.9kg）減。
- **豚肉の製品価格**  
（15日午前/100ポンド〔約45kg〕当たり）：  
今週になって急落し、ほぼすべてのカットで軟調。トリム4分の1インチのロインは、前週比1.00ドル安の82.50ドル。ボストン・バットは51.58ドル。17～20ポンド物（約7.7～9.1kg）のハムは、同1.00ドル安の64.00ドル。一方、12～14ポンド物（約5.4～6.3kg）のベリーは76.00ドルで、前週比同2.00ドル高と堅調。
- **肉豚の現金取引価格の動向：**  
今年の肉豚の取引価格（デイリーおよび月間平均）は、すでに底を打ったとする見方が強い。デイリーでは8月下旬の価格が、月間平均では9月の価格が、それぞれ年間の最安値になると見られる。結果的にこの予測通りになった場合、8月にデイリーの年間最安値を記録するのは、おそらく今年が初めてである。

主要市場における100ポンド（約45kg）  
当たりの最高価格（US\$）

	11月15日
ペオリア	25.00
セントポール	26.50
スーフォールズ	27.00
ミズーリ中央部	26.00

185ポンド物（約83.5kg）の枝肉平均価格（US\$）

	11月15日
東部トウモロコシ地帯	36.49
西部トウモロコシ地帯	36.59
アイオワ・ミネソタ	36.55
全国	36.52

(Hogs—Glenn Grimes & Ron Plain, 11/15/2002)

## USMEF ニュース

### 米国の食肉輸出業者、トレーサビリティ強化へ

食肉のトレーサビリティが急速に議論の的になっている。米国の輸出業者が抱える主要な課題は、食肉のトレーサビリティ強化が世界中で求められていることと、輸出業者がこれを導入するメリットは何かということである。

自主的なトレーサビリティ拡充によるメリットは、家畜の健康管理、食物の衛生管理能力の増強、他国の輸入要件に対する遵守レベルの改善、消費者の信頼度アップなどである。

調査によると、特に日本における最近の食肉偽装事件などを受けて、消費者は食品の安全確保に万全を求めている。カンザス州立大学によれば、トレーサビリティは消費者にとって自己防御策の一環であり、製品を購入する際に主たる購買判断材料になり得るといふ。

一方、世界各国において、関税率の緩和とひきかえに設けられる各種の輸入規制が、米国輸出の技術的障壁となっており、輸入の技術的障壁や反ダンピング措置は、ここ10年で400倍に増加したとも言われている。トレーサビリティは、米国の生産者が輸出にあたって直面する、こうした規制への対抗手段となる。

(MEATnews.com, 11/12/2002)

(参考)

米国のレッドミート生産量<sup>1</sup> (連邦検査を受けたもの)

(100万ポンド)

種別	2001	2002	2002	2002年10月(%)		1~10月累計 <sup>2</sup>		
	10月	9月	10月	対2001年10月	対2002年9月	2001年	2002年	対2001年(%)
牛肉	2,353	2,170	2,474	105%	114%	21,494	22,504	105%
子牛肉	17.0	15.7	18.0	106%	115%	157.0	155.8	99%
豚肉	1,818	1,617 <sup>3</sup>	1,810	100%	112%	15,536	16,052	103%
ラム/マトン	18.9	16.8	18.8	100%	112%	178.2	173.8	98%
レッドミート合計	4,206	3,820	4,321	103%	113%	37,366	38,886	104%

資料: USDA's Livestock Slaughter, 11/22/2002

注: 1. パッカーの枝肉重量に基づく。農場でのと畜は除く。

2. 切り上げ、切り捨てなしのデータに基づく累計および比率。

3. 改定。

## 米国における食用動物への抗生物質使用が減少

米国動物薬事協会(AHI)は、畜産動物用医薬品を製造している動物薬品企業の調査による新しいデータから、米国で使用されている抗生物質の量が過去2年で着実に減少していることを明らかにした。提出されたデータによると、抗生物質の販売量が2000年では1,075トン、1999年では1,089トンであったのに対し、2001年では989トンに減少している。食用動物に対する抗生物質の使用量の減少には、以下の3つの理由があげられる:

1. 抗生物質の慎重な使用と、抗生物質利用の必要性を減少させる生産方法の改善
2. 生産方法および予防衛生対策の改善
3. 食用に供される動物の抗生物質問題に対する認識を高める公衆衛生および消費者団体の継続的な努力

米国食品医薬品局(FDA)は、疾病の治療、予防、生産性、もしくは飼料効率の改善を目的として抗生物質を使用することを認めている。米国では、食用に供される動物に利用される抗生物質の80%以上が、疾病治療や予防に使用されるだけでなく、動物の健康を維持し、成長を促進させるためにも使われている。

食用動物の健康維持のための抗生物質の使用については、しばしば人体への影響について討議されてきたが、微生物学、リスク評価や、獣医および家畜衛生専門家からなるグループによって、動物が保有する抗生物質耐性の人体への移行の実質的なリスクは極めて低いことが明らかになった。

また、EU圏では、動物への抗生物質の投与を中止している国もある。その後の影響について、数年間に及ぶ調査が行われてきている。例えばデンマークでは、1997年から1999年にかけて成長促進目的の使用が段階的に禁止された。しかし、デンマークの農家では、抗生物質の使用禁止により、子豚を中心とした豚に頻繁に下痢が発生すること、加えて離乳後の成長が阻害され結果的に生産コストの増加をまねくことが明らかになった。また、使用禁止後、サルモネラおよびカンピロバクターといった菌による人への感染症が、記録的に増加し、多剤耐性サルモネラDT104が倍増するという結果が出ている。

この研究結果は、9月27日に開催された、感染性疾患、抗菌剤と病原体に関する世界的に信頼度の高い科学会議である第42回「抗菌薬および化学療法に関する学術会議」(Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy)において、発表された。

※ 本内容につきましては、9月27日ならびに30日に米国動物薬事協会(AHI)より発表されたリリース内容に基づくものであり、原文は同協会ホームページ(<http://www.ahi.org>)でもご覧いただけます。